

第4回文京区アカデミー推進協議会分科会(観光分野) 議事要旨

日 時	平成27年8月7日(金) 18:30~20:30
会 場	文京シビックセンター21階 2104会議室
委 員	会 長 野口 洋平 (杏林大学外国部学部英語学科准教授) 委 員 白井 圭子 (文京区観光協会 副会長) 委 員 荒木 時雄 (公益財団法人 東京観光財団 常務理事) 委 員 金輪 精梧 (文京区町会連合会副会長) 委 員 上田 武司 (文京区商店街連合会副会長) 委 員 春田 孝二郎 (文京区高齢者クラブ連合会副会長) 委 員 増田 純 (区民公募委員)
事務局	熱田 直道(アカデミー推進部オリンピック・パラリンピック推進担当課長、 アカデミー推進部観光・国際担当課長) 諸 久子(アカデミー推進部アカデミー推進課 観光担当) 支援事業者 株式会社創建 氏原・山崎
資 料	「次第」及び「第4回分科会の進め方について」 施策体系(案) 平成26年度取組状況結果(観光分野)

議 事

1. 開 会

2. 議題

熱田委員より、資料「施策体系(案)」に基づき、施策体系(案)および、基本的な方向性毎に既存の事業と新しい事業に結びつく意見について説明を行った。

野口会長 施策体系(案)における基本的な方向と既存事業との対応だが、観光案内板の整備は基本的な方向1-(3)に該当するのではないかと。観光ボランティアガイド事業は3-(3)にも該当する。観光インフォメーションは複数の方向性に紐づけられているので、同様に扱ってはどうか。観光促進タウンミーティングは、関係者・関係団体と意見を交換する場だとすると、3-(1)の方がよいように思う。

熱田委員 事業者との連携という意味ではそのように思う。仔細に見ると、ひとつの事業が複数の方向性に関わってくるのが分かる。

野口会長 現行計画でも事業が複数の方向性にまたがっており、再掲されていると思う。

熱田委員 他にも複数の方向性に該当しそうな事業があれば、ご指摘いただき

- たい。
- 白井委員 観光リーフレットが、食事や史跡を紹介するものになっているが、実際にまちあるきをするときに必要な情報が掲載されているとよいのではないか。トイレや一服できる場所などの情報もいっしょに掲載し、まちあるきに必要なものを案内する地図をつくとよいと思う。
- 野口会長 動線を意識したマップづくり、食事処以外のマップづくりに該当することだと思う。
- 白井委員 食の文京ブランド100選はよい取組だが、どの地区に何があるのかが、一目で分かるようになっているものがあるがありがたい。
- 野口会長 リーフレット作成という事業は1-(4)に記載されているが、もしかしたら他の方向性にもかかわるのかもしれない。
- 熱田委員 1-(3)などが該当しそうだ。
- 野口会長 地方に行くと、地図上の番号が実際の建物や場所にも表示されることがある。地図と実際の場所を関係づけられると親切だと思う。マップづくりは、市販のものもあるので、区の発行物としてどこまで作り込む必要があるのか。特定の店だけ紹介するわけにもいかないと思うので、使い勝手を考えると道に迷わないことが大切で、効率よく回るようにすることも必要だと思う。
- 荒木委員 トイレの情報も必要だと思う。バリアフリートイレの所在は特に。まちあるきをする視点で施設を紹介しているとよい。
- 増田委員 バリアフリー対応については、飲食店の状況が分からないのが困る。
- 荒木委員 ペットを同伴できるかどうか分からない。
- 増田委員 そういう情報が、現地に行く前に分かると親切だと思う。
- 野口会長 いま、方向性3-(2)に関係する意見としてバリアフリー対応が挙げられているので、そのようなマップづくりも3-(2)に入ると思う。本来のバリアフリーは障害者が想定されていることなので、特別な取組として切り出すことは本意ではない。自分の祖母も車いすで旅行をしていたので、高齢化が進むなかではそのようなケアは必要なことだと思うが、それが自然とできていることが本来のバリアフリーだと思う。
- 荒木委員 回遊性に関する取組でも、バリアフリーは意識されるべきだと思う。
- 増田委員 すべての飲食店がバリアフリーになるとよいが、難しいと思うので、差し当たり既存のバリアフリー対応店を紹介するとよいと思う。
- 上田委員 基本構想推進区民協議会に参加しているが、似た議論がなされている。様々な領域でバリアフリーの旗振りがされているが、実態はなかなか進んでいないようだ。
- 観光で訪れる人は事前に調査しておくこともあると思うが、区なりのモデルケースをつくってはどうか。シビックセンターの1階などにパネルを設置し、パネル上で観光スポットを選択すると、コースを推奨する

ような仕組みをつくってはどうか。

白井委員 観光客は文京区のホームページを観ているのか。

上田委員 文京区とは意識していないと思うが、そういう人に対して文京区ならではの観光スポットを推薦し、足を運んでもらうことがよいことだと思う。

野口会長 自分が委員として関わった豊島区の観光振興では、出張で豊島区を訪れて2～3時間ほど区内に滞在する人に回遊してもらうために、何か観光スポットを薦められないかという議論になった。文京区でも、限られた時間で回れる場所を紹介できるとよいだろう。

上田委員 1日滞在することは難しいが、2～3時間であれば、楽しめる場所はたくさんある。

野口会長 どれぐらいの滞在時間を想定するかが大切だ。文京区観光協会のホームページにコースが紹介されているが、所要時間はかかれていない。また、途中休憩の飲食店やトイレの場所などは書かれていない。

白井委員 大事なことだと思う。

荒木委員 スマートフォン・アプリがあってもよいかもしれない。今後スマートフォンは普及するので、情報更新のしやすさを考えても有効だと思う。

上田委員 QRコードを使って商店街情報を読み込む仕組みを検討している。観光にも活用することができると思うが、お金がかかるので事業として前進させられていない。9つの地域活動センターにタッチパネル式の案内板をつくってもらえるとよいと思う。9つのエリアごとに物語をつくり、そのストーリーの要素を取捨選択してコースをつくり、観光を楽しめるような仕組みが考えられる。そういった仕組みがあると、その人なりの文京区の楽しみ方ができるのではないか。

野口会長 オーダーメイドの案内というイメージか。

上田委員 レディーメイドでよいと思う。既存のコースを選択することで、カスタマイズできるとよい。

春田委員 JRの駅には、まちあるきのマップがよくあるが、文京区にはJRの駅がない。東京メロではまちあるきのマップなどは配布していないのか。

事務局 東京メロの駅でも区のチラシなどは置いてもらっている。シビックセンターの展望ラウンジが話題になっているので、アプリをつかってスタンプを集めるメロのイベントに参加している。

野口会長 既存の事業の振り分けについては、今回の意見を踏まえて事務局でも見直してもらいたい。新規事業案に話を移したいが、情報提供については、すでに意見をいただいた。他に何かないか。

白井委員 スマートフォンが普及しているので、観光案内もスマートフォンで情報を入手できるとよいと思う。

野口会長 予算のかけ方として、地図の印刷費をアプリ開発費用に変えていくことは考えられることだと思う。地図作成の際に、アプリも同時に開発す

ると余計に印刷する必要がなくなるので、印刷費は抑えられるかもしれない。

上田委員

外国語対応も可能になる。

白井委員

アプリ開発のような事業に国や東京都から補助金は出ないのか。

野口会長

紙の地図を作成することに補助金は出ないと思うが、ICTをからめると可能性が出てくると思う。デジタルサイネージ(電子掲示板)を使った観光案内版があるが、東京都の施策ではその設置が挙げられていたと思う。

荒木委員

補助金が出ていて、大きな駅には設置が進められている。

上田委員

ハード整備に補助金は出るかもしれないが、表示する情報をどうするかを考えないといけない。

野口会長

事業費の捻出が自前ではできないが、補助金が出たら実施する事業も計画書には記載した方がよいと思う。

事務局

現状の資料では、予算がついている事業を載せている。

野口会長

補助金をとること自体を事業としてもよいのではないか。経済産業省などの補助金のうち、文京区に適したものを獲得していくことも大事だ。

熱田委員

全庁的な考え方として、オリンピック・パラリンピックに向けて補助金を獲得していこうと考えている。観光でも考えられることだと思う。

白井委員

ぜひスマートフォンのことは考えてもらいたい。

野口会長

デジタルサイネージも考えられる。

事務局

多言語対応の必要性から、デジタルサイネージは見直しているところだ。東京都の補助金が出るのであれば、区のルールも見直ししながら設置していくことも考えられる。

野口会長

地元の公民館まで多言語化している地域もあるが、観光客は行かない場所なので、やりすぎだと指摘されている。情報過多は、逆に外国人が迷ってしまう結果となる。補助金を獲得するのであれば、有効に生かす必要がある。

ところで、新しい事業のアイデアになるが、旅行会社に働きかけるようなことは考えられないか。トイレやバスの駐車場、大人数で食事ができることなど、旅行会社が知りたいことを情報提供していくとよい。そのほか、スカイツリーに行くツアーに文京区の観光スポットを組み込むような営業も考えられる。

事務局

そういったことは観光協会が行っている。区内には観光客を受け入れる施設が十分でなく、さくらまつりも来場者が多くなっているが、観光バスは近隣には駐車できない。

野口会長

少人数でもグループ対応可能という情報を提供してもよい。とにかく情報提供が大切だ。

上田委員 文人銘菓などのご当地お菓子は、何かの集まりでおみやげに使って
もらうことも考えられないか。そうすると数が出るので、事業者も文人銘
菓に登録したいと思うかもしれない。

事務局 文人銘菓をおみやげに使ったことはある。特定の店舗に集中すること
は避けなければいけない。

白井委員 観光協会認証シールを配布したが、店舗には貼ってもらえなかった。
事務局 PR方法もあわせて考えないといけない。

野口会長 何かしらの集まりのおみやげに使い、まとまった数を配布し続けること
で、定着するのだと思う。

上田委員 過去に弁当屋の包装紙に、店がある地域にゆかりのある文人の紹介
を入れたことがある。印刷費がかかって途中で止めてしまったが、区
にゆかりのある文人は多いので、コンテンツとして使えるなら、使った
方がよい。

野口会長 観光協会よりも、区のお墨付きが大事だと思う。区が認証した物品は
別扱いにしないと、文京区ゆかりの商品をつくることにメリットを感じて
もらえない。地方では事例があるが、会議のお茶菓子として提供する
ことや、区内の学会などの手土産であれば、割引で提供するといった
展開が考えられる。
また、文京区とかかわりのないイベントを新しく立ち上げてはどうか。
文京区にこだわると歴史ものになるが、そのような脈絡のないようなも
のがあってもよいのではないか。たとえば、若者にやってみたいイベ
ントを考えてもらってもよいし、新たなイベントを公募して事業費を補
助することも考えられる。

白井委員 浅草のサンバカーニバルは、脈絡がないが定着している。

野口会長 何年もやりつづけると定着する。そのためには種をまかないといけな
い。花の五大まつりは文京区のイメージぴったりだが、すこし違和感
があるようなものも大事な種になって、芽が出てくるかもしれない。

事務局 スポーツ分科会でも新しい取組は話題になっている。

白井委員 区内にはサッカー協会もあるので、連携できるかもしれない。全国レ
ベルの大会を開くことも考えてもよいのではないか。

熱田委員 競技場がないので、全国大会はなかなか難しいかもしれない。

野口会長 近隣自治体と連携して、東京ドームを活用してもよいかもしれない。ス
ポーツイベントは考えられる。

事務局 イベントの公募はやったことがない。文京区が独自で補助金を出すこ
とは、考えたことがなかった。

野口会長 日比谷公園のオクトーバーフェストも、季節のイベントとして定着して
きている。文京区も、脈絡のないイベントをすることで、これまで文京
区には来なかった層が足を運んでくれる。そういう掘り起こしも必要な

のではないか。

別の話になるが、方向性3-(2)に示されているバリアフリーや多言語対応は、施策として進めようとする他部署と関係することだと思うが、いかがか。

- 事務局 現在、他部署との関係を調査している。計画書には、他部局との関係も踏まえて記載する予定だ。
- 野口会長 多言語対応は緊急事態も想定していると思うが、東日本大震災の規模の地震が発生したときに観光客に対してどのように対応すべきかと考えている。2〜3日、区内にとどめておくことができるのか。住民向けの危機管理は進めていると思うが、観光客向けにはどうか。
- 上田委員 区外在住者の対応は、主として在勤者・通学者だと思う。避難所は32か所あるが、2000名ぐらいの備蓄があると聞いている。
- 野口会長 在勤者・通学者は歩いて帰れるが、観光客は帰れない。東日本大震災時には帝国ホテルもロビーを開放し、炊き出しをしたと聞いた。区としても観光客への対応を考える必要はあると思う。
- 事務局 東日本大震災のときには文京区シビックセンターは避難所にはなっていなかったが、訪れる人はいた。その反省を踏まえ、避難所として備蓄をしている。外国人向けの取組は把握していないが、世界共通のピクトグラムがあるとよいかもかもしれない。
- 熱田委員 東京ドームがオリンピック・パラリンピックの会場になると、外国人もふくめて、多くの観光客が訪れる。全庁的な対策をとらないといけなと思う。
- 増田委員 人はパニックになると案内を読んだりしない。語学が話せるガイドが頼りになるのだと思う。やはり人と人の関係が大事なのだろう。
- 野口会長 防災無線はあるのか。
- 事務局 ある。
- 上田委員 150数個の町会に有線のスピーカーがある。公園に設置されているものは聞き取りにくい。
- 春田委員 学校が避難所に指定されているので、帰宅難民の方が利用していたと聞く。避難所は地元の人のためというよりも、在勤者・通学者を想定してやっているのだと思う。
- 上田委員 区民は自宅で備蓄しているはず。
- 荒木委員 日常の安全安心という取り組みがあつてこそだと思う。東京都で隣組制度の復活が議論されたが、コミュニティによる安全を考えてもよいのではないか。普段のまちが安全安心に取り組むということにも触れておいた方がよいかもかもしれない。
- 野口会長 町会での夜回りも含めて取り上げるということか。
- 荒木委員 そうだ。

野口会長 観光客は、なるべくリスクは避けたいと思うものだ。危険なエリアはもちろん、想定外の出費も好まないのも、観光案内のマップに記載される店舗は、店頭でメニューと価格を表示してもらった方がよい。気軽に入れる店を宣伝することは、観光振興にとっては大事なことだ。多言語化はスタッフで対応できるが、そうでないこともある。

荒木委員 方向性2-(4)について、外国人が浴衣を着付けにくくもあるのか。

事務局 国際交流フェスタでは体験コーナーがあるが、観光分野では事例がない。事業案として話題になることはあるが、外国人を誘客する方法をあわせて考えないといけないと思っている。

荒木委員 外国人住民向けでもよいのではないかと。アンケート調査をみると外国人と交流したいと思っている人が多いようなので、国際交流にもつながるのではないかと。

事務局 着物の着付けは行っているのだから、同じように考えてもよいかもしれない。体験した外国人が、SNSで発信してくれると、広がりも出てくる。

野口会長 体験することが、観光でも重視されるようになってきている。何かを観るだけでなく、深い体験ができることがまちの魅力となる時代だ。

荒木委員 文京区には庭園が多くあるが、六義園を使ったレセプションができたりすると、海外からも学会を呼ぶことができるかもしれない。

事務局 ユニークベニュー（歴史的建造物、文化施設や公的空間等で、会議・レセプションを開催すること）のようなことを観光協会でもできるとよいと思う。

荒木委員 勢いのある時期だと思っているので、規制緩和のような話は、いまこそ考えた方がよいだろう。

白井委員 着付けは留学生向けにやるのもよい。京都では着物のレンタルがはやっているが、着物を着ているとタクシーや飲食店が割引になる。着物が増えるとまちが華やぐるので、両方にメリットがあるのだろう。

事務局 区内企業にも手伝っていただいて、できるとおもしろいと思う。

春田委員 AirB&B（エアビーアンドビー・世界最大級の宿泊先予約サイト）の相談を東京大学の学生から受けることもある。一人暮らしの高齢者の家に、外国人が泊るといったアイデアも聞く。

野口会長 大学生が高齢者と外国人をつなぐ役割をすればよい。方向性3-(2)に該当する事業を公募して予算を出すなど、いま発言にあったような草の根の事業に手を挙げてもらえるような仕組みをつくる視点は必要だと思う。

春田委員 コンベンションなどで区の名産品を使うと、割引価格で入手することができる制度があってもよいと思う。

事務局 ひとつに決めにくい。

上田委員 補助金は出さない。個店に努力させ、買ってもらうようにしないとけない。

野口会長 どの段階でお金を出すのが重要だ。商品開発、販促、購入と様々な段階があるが、いずれにせよ名産品については区でリードすることも必要だと思う。

上田委員 商店街に跡見学園女子大学が手伝いに来てくれている事例もある。単位がもらえるようで、大学連携も様変わりしている。

春田委員 現在、跡見学園女子大学の生徒にホームページを手直ししてもらうことを考えている。

事務局 若者の能力を生かすことはよいことだと思う。

春田委員 社会に出てからの仕事を覚える機会にもなっているようだ。

野口会長 跡見学園女子大学は観光コミュニティ学部が開設された。東洋大学にも国際地域学部があるが、ひとつの自治体に複数の観光系学部があるのは文京区だけかもしれない。それは生かした方がよいと思う。

事務局 文京つつじまつりに外国人観光客が多く訪れるのだが、実行委員会には外国人観光客の案内ができる人がいないということで、東洋大学に協力をあおいだという事例を聞いた。

野口会長 大学での観光に関する教育は、実地で行うことがトレンドだ。大学の地元で経験できることはよいことだ。観光を学ぶ拠点に文京区がなるのだと考え、大学との連携を考えてもらいたい。

既存の事業の振り分けは、再検討しなければいけない。協議会では個別の体系を協議することはなく、今後分科会も開催されないが、事務局には今日の意見を踏まえて検討してもらいたい。

今回、検討が進められているが、新しいチャレンジという点ではまだ弱い。観光客の実態調査や入込客数の把握、区外住民のイメージ調査など、攻めの取組も考えてもらいたい。文人にまつわる事業も大事だが、何か新しい芽となる事業もお願いしたい。

3. 閉会

以上